

学生プロジェクトによる携帯端末を用いた学習・学生生活支援システム

The Study and the Student Life Supporting System Using the Mobile Terminal by a Student Project

中桐 斉之^{*1}, 上谷 成生^{*2}, 中井 穂高^{*1}, 内平 隆之^{*2}, 米山 寛二^{*1}
Nariyuki NAKAGIRI^{*1}, Naruo KAMITANI^{*2}, Hotaka NAKAI^{*1}, Takayuki UCHIHIRA^{*2}, Kanji YONEYAMA^{*1}

^{*1} 兵庫県立大学環境人間学部環境人間学科

^{*1}School of Human Science and Environment, University of Hyogo

^{*2} 兵庫県立大学環境人間学部エコ・ヒューマン地域連携センター

^{*2}Eco Human Community Cooperation Center, University of Hyogo

Email: nakagiri@shse.u-hyogo.ac.jp

あらまし：本稿では、学生 SNS として、大学型 SNS の情報を大衆型 SNS に流すハイブリッド型 SNS を提案する。運営は、地域連携センターの学生プロジェクトが行う。現在の主たる機能は、学習支援や就職、クラブ・サークル、学生プロジェクトなどの学生生活支援であるが、今後は地域ポータルサイトとして、商店紹介や観光にも取り組んでいく。最大の課題は、登録ユーザ数の拡大である。

キーワード：学生 SNS、ハイブリッド型 SNS、学習・学生生活支援、地域ポータルサイト

1. はじめに

平成 23 年 3 月、兵庫県立大学環境人間学部エコ・ヒューマン地域連携センターが設置されたのに伴い、センターの学生プロジェクトが運営する携帯端末ベースの学生 SNS、echo 姫を立ち上げた。学生プロジェクトは兵庫県の「平成 23 年度青少年主体の地域連携活動支援プログラム」に登録され、平成 24 年 3 月、兵庫県より活動認定書が授与された。平成 23 年 10 月における就職活動支援のためのユーザ登録と平成 24 年 4 月における新入生支援のためのユーザ登録を契機に登録数が増加し、300 名の学生がアクセスしている。echo 姫は、目下、学生の学習・生活支援を主として行っているが、姫路における地域ポータルサイトとして、その機能を拡大しつつある。

2. 研究の背景と目的

現在の学生 SNS は 2 種類に分類される。第 1 は、大学が学生サービスの一環として、一方的な情報提供を行うものであり、これを便宜上、大学型と呼ぶ。学内のセキュリティ・ポリシーに保護されており、携帯電話やスマートフォンなどモバイル端末への対応は少なく、学内の PC からアクセスする。第 2 は、フェイスブックをはじめミクシィなど学外で提供された SNS サイトを活用して学生達だけが情報交換するものであり、これを大衆型と呼ぶ。大学型チャンネルからは、大学の行事や提出書類などの情報が流され、学習における試験情報や就職活動での内定獲得ノウハウなど学生にとって有益な情報は少ない。一方、大衆型チャンネルは学生にとって有益な情報を得やすいチャンネルであるが、所属する大学の学習や学生生活に関する情報は少ない。そこで、我々

は、大学型の情報を大衆型に流すことができるハイブリッド型 SNS を提案する。機能として、大学生の学習と学生生活を支援することを目指し、運営は学生プロジェクトが担当しながら大学と学生が一緒になって推進する仕組みを模索する。以上から学生達のキャリア形成やベンチャー精神の養成をも期待する。

3. echo 姫の現状

本学生 SNS の初期画面を図 1 に示す。現在は、ターゲット端末を携帯電話としているため、機種によるメモリー制約から実装に制限があり、画面も図 1 のような地味なインターフェースであるが、スマートフォンでは見栄えのする画面となっている。また、echo 姫の初期メニューを表 1 にまとめた。なお、「防災マップ」は目下準備中である。



図 1 echo 姫の初期画面

学習支援については、「新入生支援」に限定して、休講情報の提供と共に、4月中の行事、高校との学びの違い、履修モデルなどをコラム形式で提示している。この中で「入学してから1カ月の出来事」に対して、最もアクセス数が多い。また、学生生活支援は、「大学生協」、「キャリア支援」、「クラブ・学生プロジェクト紹介」、「消費者力支援コラム」を提供しているが、この中で先輩の「内定企業の試験内容」に対するアクセス数が最も多い。

さらに、「地域のゲーム」にはソーシャルゲームを実装しており、SNS機能を備えているが、echo 姫としての SNS 機能は「えこひろば」(掲示板)で実現できるよう機能の改良を続けている。

表1 echo 姫の初期メニュー

[1]お店紹介
[2]えこひろば (掲示板)
[3]防災マップ
[4]大学生協
[4]新入生支援
[5]キャリア支援
[6]学生プロジェクト参加の窓
[7]クラブ・学生プロジェクト紹介
[8]地域のゲーム
[9]地域での取組み (エコ・ヒューマン地域連携センター)
[10]サッカーコラム
[11]登録者一覧
[12]PC、スマートフォン利用登録
[13]ご意見箱
[13]消費者力支援コラム

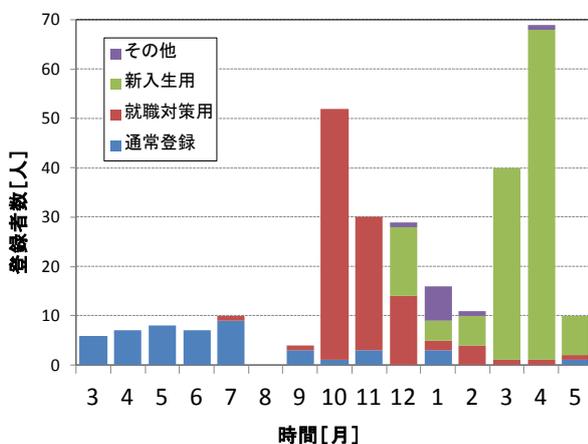


図2 echo 姫への登録者数の推移

立ち上げから、平成24年5月31日までの登録者数の推移を図2に示す。これまで5種類のユーザを設定した。図2の青色は通常の登録、赤色は2013年就職活動に関係する学部3年生、修士課程の大学院1年生を対象にしたインセンティブを与えた登録、緑色は平成24年4月に入学した新入生を対象にした登録を示している。図2より、緑の就職活動学生と赤の新入生が突出している。このことから、登録数を確保するには、就職活動や入学といった何らかの『縛り』が必要と分かる。

4. 課題と解決策

(1) 学生プロジェクトの維持

学生だけで学生プロジェクトを維持するのは難しい。本 echo 姫プロジェクトでは、毎週木曜日昼休み、エコ・ヒューマン地域連携センターで、教員が入って定例会議を開催している。また、開発会社との会議には学生が直接折衝を行って、モチベーションを高めている。

(2) 大学の協力

大学が持つ情報の公開に対する大学当局や教員の理解は浅い。これに対し、本プロジェクトでは、エコ・ヒューマン地域連携センターの兼任教員が大学型チャンネルの情報を本 SNS に流すために努力をしている。

(3) 登録ユーザ数の拡大

大衆型 SNS のように自然拡大は望めない。これに対して、本プロジェクトでは、就職活動開始時期や入学手続きなどのエポックをとらえると共に、登録時にインセンティブを与えて登録数を拡大している。

5. 今後の展開

我々は、本学生 SNS の主目的を、学習・学生生活支援としながらも、姫路市に立ち上げた地域ポータルサイトとしても位置づけている。平成23年度には、姫路市にある就職サイトと連携して、姫路市の信用金庫より研究助成金を受けた。平成24年度も、姫路市より助成金を得ている。今後は、学生がよく利用する大学に近い商店の紹介を手始めに、姫路市の観光や商店街の活性化に寄与する活動にも取り組む予定である。その際、連携センターの他の学生プロジェクトとも協力して進める。学生にとっては、本学生 SNS の運営を通じて、単に情報システムの開発にとどまらず、社会活動にも携って社会適性能力を培うようにしたい。